

株式会社大阪鶴見フラワーセンター中期経営計画（2024年度～2028年度）概要

【Ⅰ 現状と課題】

◆はじめに（P2）

<前期中期経営計画（2019年度～2023年度）の実績>

- ・実施目標のいくつかは中止、または先送りをせざるを得ない状況となり、「単年度黒字を維持し経営の自主性を高めていく」という重要なテーマについては、**2020年度未達**（経常利益ベース）
- ・施設改修については、経営状況を勘案しながらも、建物・設備の経年による劣化対策に加え、セリシテムの更新、商品の定温保管スペースの拡充など、優先順位をもって機能拡充を実施

<今後の課題>

- ・**2024年**の物流問題に対応した西日本最大の花き市場にふさわしい環境整備
- ・**2023年6月**に大阪鶴見フラワーセンター（以下「当社」）が取得した交流施設跡（三井アウトレットパーク大阪鶴見）の活用方法の策定
- ・竣工後**30年**が経過した当市場施設の老朽化対策

◆当市場の現状（P3～P8）

<取扱高>

○直近5年の取扱金額は約**6%**の増

263.0億円（2022（R4）年）/248.6億円（2018（H30）年）=105.8%

○直近5年の取扱量は約**12%**の減

3.8億本・鉢（2022（R4）年）/4.3億本・鉢（2018（H30）年）=88.4%

<財務状況>

○収支

- ・**2002年度以降**は売上高の増加や金利負担軽減により単年度黒字を継続
- ・**2015年度末**には累積赤字を解消
- ・**2019年度末**から新型コロナウイルス感染症の影響により、**17年ぶり**に赤字を計上したが、**2021年度以降**は黒字回復
- ・売上 **673.9百万円（2022（R4）年）/587.8百万円（2018（H30）年）=114.6%**

○資産・負債

- ・市場建設費**122億円**のうち、**67億円**の補助金（国：**23億円**、府：**22億円**、市：**22億円**）を充当。残りは借入金等を充当。当該借入金は償還済

【Ⅱ 今後の取組み】

◆事業運営の基本方針（P9）

- 2024年度**中に交流施設跡の活用方法を策定
- 西日本最大の花きの集積地としての整備を進めることにより、当市場の取扱高の増加による収益向上を図り、企業価値の向上を図る。
- 事業運営においては、効率的な経営に努め、単年度黒字を維持
- 計画期間は、**2024年度から2028年度**までの5年間（交流施設跡の活用方法等を踏まえ、**2025年度末**までに見直し）

◆今後の取組み（P10～P13）

<市場活性化への取組み>

(1)選ばれる市場としての機能拡充

①市場環境の整備

- ・経年劣化対策だけでなくとどまらず、魅力ある市場となるよう取組み、集荷力の向上に寄与
 - ▷交流施設跡の有効活用、基幹コンピュータシステムの更新・機能向上
 - ・環境負担軽減に向けた取組みの継続（廃棄物総量の抑制と再資源化）
- 【目標】廃棄物の再資源化率 年間：**78%**

②展示会等の開催支援

- ・市場内施設（フラワーギャラリー、レセプションルーム等）を、産地・卸売業者から買受人への情報発信の場、買受人の交流の場として提供し活用
 - ▷卸売業者と産地が連携して行う新商品などの展示会・商談会の開催 【目標】年間**14回**

(2)消費拡大・活性化の推進

- ・当社、卸、仕分け業者、仲卸、買受人の代表者が一同に会する会議の開催
 - ・卸、仕分け業者、仲卸、買受人の代表者を対象とした**CS調査**の実施
- 【目標】花き卸売市場に対する市場関係者の不満足度：**11.0%**以下
- ・花きに関するイベントへの参加や開催 【目標】年間**5回**

<施設改修>

- ・建物・設備の老朽化や法令改正による既存不適格等に対応。交流施設跡の活用と合わせた整備を行う。
- ・劣化や法令対策の優先順位を決め、流通拠点としての機能を発揮できるよう施設整備を推進していく。（交流施設跡の活用方法等を踏まえ、**2025年度末**までに見直しを行う予定）

<収支見込>

- ・効率的な経営を進めることにより、単年度黒字を維持 【目標】各年度の経常利益